

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年8月31日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873700520		
法人名	有限会社 ケアーさくら		
事業所名	グループホーム さくら荘	ユニット名	西ユニット
所在地	〒311-3836 茨城県行方市南95-5		
自己評価作成日	平成27年2月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873700520-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0873700520-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年3月19日	評価機関 決 済 日	平成27年8月31日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日常生活圏内に近い、地域密着型入居に力をいれ取り組んでいます。入居者の大半が市内、近隣の方々であり、親類や昔からの友人等も気兼ねなく訪問でき、自宅にいた時と同じような生活が送れる様な環境づくりを心掛けています。荘内行事等でも、近隣の老人会・民生委員・地区長・家族の方々へポスターを作成し掲示や郵送などして参加を呼びかけ、ボランティア・慰問の方々の協力も得て盛大に開催しています。地域の美容組合の協力の下、定期的な散髪を訪問で行ってもらうなど、利用者の馴染みの方々とのふれあいの継続が図れる様支援しています。玄関までの通路脇などに季節の野菜や花々を植え、施設内に飾ったり、収穫した野菜で献立を一緒に考え調理したりしています。健康面では協力指定医との連携を図り、定期的な往診や緊急時の対応が速やかに行えるよう努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は霞が浦近くの幹線道路から少し離れた小高い丘の中腹に位置し、利用者は穏やかな生活環境で自由に散歩を楽しんでいる。  
介護支援専門員は看護師の資格も有し、協力医療機関の医師や看護師との24時間連携体制が整備されているとともに、看取りに関する指針を作成して説明し、利用者や家族等の安心につながっている。  
事業所の緊急連絡網に地域住民も加わっており、避難訓練には多数の地域住民の参加を得ているほか、災害時に地域住民が自宅での生活が出来なくなった場合は、事業所での生活を提供するなど、地域に密着した事業所となっている。  
職員同士はコミュニケーションを図り、笑顔で利用者に接する事を心がけ、理念にそったサービスを提供している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は、利用者が安全で安心した生活が継続できる事を第一に考え、家庭的な雰囲気のもと、利用者に対する尊厳・尊重を重視した理念を掲げ、全職員が日々の業務の中でも意識できるよう、箇条書きに変更し、トイレ内に掲示するなど、実践に活かせるよう取り組んでいる。	長文だった理念を管理者と職員で理解し易いように見直し、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。 職員は理念をいつでも確認できるように名札ケースに携帯するとともに、トイレにも掲示している。 管理者と職員は、月1回の職員会議時に理念を確認しながら共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設主催のソーメン流し・福祉祭り等の行事には、地域の老人会・近隣の方々・利用者家族等に呼びかけ・手紙を出すなどして参加して頂き交流を図っている。また、地域の祭事やイベントにも積極的に参加し、日頃から交流が図れるように努めている。	隣接する同一法人と共同で開催する「そうめん流し」や「福祉祭」には、地域の老人会や近隣住民を招待し、利用者の家族等も含め100名以上の参加を得ている。 幼稚園児が来訪して歌や踊りを披露し、利用者は幼稚園児にお土産を渡すなどして交流している。 利用者は中学校の運動会に招待されて玉手箱競技に参加するほか、地域の祭事の模擬店で買い物をした際や頻りに花や野菜のお裾分けを頂くなどで、日常的に近隣住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受けた場合には、認知症ケア専門士を筆頭に迅速に対応している。また、全職員が対応できるよう荘内の研修等で知識向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・老人会長・民生委員・区長・家族代表の方の参加を得て定期的（1回/2ヶ月）に運営推進会議を開催している。事前に議題を知らせて活発な意見交換が出来るように努め、サービスの質の向上に活かしている。会議で出た意見等は議事録に残し、得た情報は全職員へ伝達できるよう議事録を見た職員はサインをするなど工夫をしている。	運営推進会議は家族等や市職員、区長、民生委員、老人会長、近隣の学識経験者の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 事業所は利用者の様子や運営状況、行事報告を行うほか、身体拘束の現状なども報告して意見を求めている。 委員からは避難訓練に参加した際の気づきや災害時には協力したいとの意見を受け、近隣住民も緊急連絡網に加えるなど、会議で出た意見は積極的に取り入れて運営に反映している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や地域包括との情報交換や相談・連絡など日頃から協力的な体制の構築に努めている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や、要介護認定申請などで市担当者を訪問する機会に、運営状況や事業所の空き状況を報告したり、市担当者からは感染予防対策の指導や介護保険制度の改正、生活保護受給者の困りごとの相談を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	室内の吐き出し窓には段差があり転落の危険が高く、入居時に本人・家族に説明をし同意を得た上でストッパーを付けている。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。日中は自由に入出りが出来るような環境づくりをしておりドアに呼び鈴をつける等の工夫をしている。やむを得ず身体拘束をする場合には本人・家族に必要な性を十分説明した上で書面で同意を得るようにし、実施後は必ず定期的な記録・検討するよう全職員に指導している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成するとともに、職員は年1回勉強会を開催して職員会議等でも話し合い、身体拘束となる具体的な行為について理解している。 玄関は防犯上夜間のみ施錠し、日中は呼び鈴を付けるなどして利用者が自由に入出りが出来るよう見守り支援をしている。 やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、同意書や経過観察記録等の書類を整備してはいるものの、活用していない。	やむを得ず身体拘束を行う場合には、家族等に口頭で同意を得るだけでなく、書面で同意を得、「経過観察記録」や「再検討記録」を整備して職員で身体拘束排除に向けた話し合いをする事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等で学んだことを全体会議の場で報告・伝達し全職員の知識向上に繋げている。また、職員に対して虐待についてのアンケートを実施したり、業務中、気になった言動についてはその都度管理者が指導している。会議などでもマスコミに取り上げられた事例について話し合う等意識付けを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修等で学んだことを全体会議の場で報告・伝達し全職員の知識向上に繋げている。また、市の担当者との連携を図り日頃から情報交換するなどして迅速に対応が出来るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず事前見学を行ってもらい背説の概要説明をしている。契約解除の際は利用者・家族の不安や疑問などを確認したうえで十分な説明をすると共に、必要な場合は体操後の生活の相談を受けたり、情報提供を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置すると共に、家族の来荘時に声かけをするなど訴えやすい環境づくりに配慮している。定期的に家族アンケートを実施するなどして運営に反映できるよう努めている。	玄関に意見箱を設置しているほか、重要事項説明書に第三者苦情申立窓口を明記している。管理者と職員は、利用者からは日々の会話の中から、家族等からは来訪時や電話で意見や要望を聴いている。家族等にアンケートを実施しているが、アンケートの結果を報告するまでには至っていない。	次回のアンケート実施に向け、意見や要望をより多く吸いあげ、運営に反映させるようアンケート結果は、家族等に報告する事を期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議内で管理者は職員の意見や要望を聞き、利用者への介護サービスや施設運営に活かしている。また、休憩時間や業務内でも気軽に話が出来る環境づくりに努めている。	管理者は月1回の職員会議時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、業務中や休憩時間にもコミュニケーションを図り、何でも言い合える関係づくりに努めている。勤務シフトの改善や職員を増やす提案を受けたり、利用者の健康状態に合わせた介護用ベッドを事業所で準備してはとの提案があり購入するなど、職員から出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告・連絡・相談などを踏まえ施設内の様子をみながら把握と理解に努めている。各職員と話す機会を設け、職場環境や条件の整備にあたりと共に、研修会への参加などを呼びかけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の個性や能力を把握し、お互い刺激し合いながらスキルアップが図れるよう努めており、日頃から意見交換を行っている。多くの職員が研修会に参加できるよう配慮し全職員に伝達する場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市や周辺地域での研修会に参加し、他事業所の方々と交流を図ると共に、お互いに情報交換をすることで資質向上とサービス向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員と利用者が気軽に話せる機会を作り、本人の要望や不安などを傾聴し安心して暮らせるよう努めている。また、利用者・家族の要望などを把握した上で個別支援計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の施設見学の際に要望や不安などに耳を傾け、より良い関係作りが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険制度の説明をしたうえで、本人・家族から情報を得て、今一番必要なことを見極め、他のサービス利用も含め一緒に考え必要な支援が導き出せるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をしていく上で、食事を一緒に楽しんだり、くつろぐ時間を一緒に過ごしたり家族的な環境づくりを心掛け、喜怒哀楽を共感できるよう努めている。また、生活上で馴染んできたこと、得意な事を利用者から教わることで人生の先輩という尊敬の気持ちを持ち接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支える為に家族との信頼関係の構築に努め、ケアの方向性や要望など一緒に検討できる関係性を築き、家族の負担にならない範囲で通院や外出などを協力して貰う事で利用者を共に支えるケアを実践している。また、家族が抱えている不安や認知症の家族に対する失望感などを少しでも解消できるようなんでも話せる関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも家族や知人・近所の方々と面会が行え、外出することで今までの馴染みの関係が継続できるよう支援している。近隣の美容組合の協力のもと、定期的に行き付けだった美容院の方々に訪問して貰い散髪を行っている。	職員は利用者の親戚や友人などの来訪時にはゆっくり話しができるようお茶を出したり、居室や居間など希望の場所に案内して、継続的な訪問になるよう配慮している。 職員は利用者の馴染みのスーパーでの買い物や学校、市役所、馴染みの場所の花見など、ドライブを兼ねて利用者の希望にそった外出支援をするほか、家族等と墓参りに行ったり、正月や盆には外泊をするなどで、利用者が馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないように常に目配り、気配りを行うと共に、利用者同士が信頼関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係は継続しており、施設行事の参加の呼びかけをしたり、相談を受けたりと付き合いを大事にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は日々の暮らしの中で利用者一人ひとりの言葉に耳を傾け思いを聞き、表情・しぐさ・つぶやきの中から思いを汲み取るよう心掛けている。意思疎通が困難な場合は入居時のアセスメントや家族からの情報を基に利用者本位に検討している。	管理者と職員は、入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握するとともに、利用者一人ひとりの担当職員を決め、日常の会話の中や仕草等から利用者一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。 意志の疎通が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話を聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問したり施設見学时に本人や家族・担当ケアマネ等から情報収集を行い生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。入居後はコミュニケーションを図りながら情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日にバイタルチェック・水分・食事・排泄チェックを行い健康状態の把握に努め、ケース記録・申し送りノート・口頭の申し送りなどにより変化や発見など職員間で情報を共有し現状把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意向や要望を重視し、フェイスシートなどを活用した情報収集を基に担当スタッフ・かかりつけ医の意見を取り入れより良い支援が提供できるよう介護計画を作成している。モニタリングは担当スタッフが3ヶ月毎に行い、心身状態により利用者に合わせて介護計画を見直している。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聴き、医師や職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを行って介護計画を見直し、長期は1年毎の見直しとしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってケアの実践状況・日々の様子やつぶやき・訴え・気づき等を個別記録に残している。また、身体の状態把握や変化を見逃さない為に独自の記録表を作成し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状態や変化に合わせてニーズの把握をし柔軟に対応・支援できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設主催の行事に地域ボランティアの方や老人会の方々の参加や近隣の学校や市の運動会・花火大会や祭事などに参加すると共に地域資源の把握に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を確認し、馴染みのかかりつけ医受診が継続できるよう支援すると共に、協力指定医による定期的な往診が受けられるよう支援している。指定医とは緊急時に迅速に対応が出来るよう日頃から情報交換を密に行っている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能な事を説明しているが、殆どの利用者は協力医療機関を希望している。 6週間毎の協力医療機関の医師による訪問診療のほか、職員に看護師がいるため24時間連携体制が整っており、必要に応じて適切な医療が受けられるようになっている。 受診結果は電話で家族等に報告するとともに「個人ファイル」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護師を配置しており、緊急時や夜間帯なども24時間連絡が取れるようにしている。必要時は受診・往診が受けられるような体制作りが出来ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院との連絡を密に行い早期退院に向けての情報交換や対応を行っている。また、看護師のネットワークを活かし必要時には速やかに相談・協力が得られるような関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人・家族の意向を確認し、当施設の対応・方針を説明した上で書面で同意を得ている。更に重度化などの状態変化時は家族・ケアマネ・医師・看護師・スタッフなどでカンファレンスを行い方向性を検討している。終末期・看取り介護に関して家族から要望がある場合は、当施設の見取りに関する指針を説明した上で同意を得ることとしている。	入居時に利用者と家族等に「グループホームさくら荘に於ける看取り・終末期介護に関する指針」を説明し、書面で同意を得ている。 まだ看取りの経験はないが、看取りに入る場合は「看取り・終末期ケアにおける確認事項」を基に家族等に確認して同意を得、実施できる体制になっている。 看取りに関してのマニュアルを作成し、職員研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時の対応については施設看護師より緊急時対応マニュアルに沿って定期的に勉強会を行っており、全職員が迅速に対応できるようにしている。また、いつでも看護師と連絡が取れるようにしていることで迅速な対応が出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回/年 日中・夜間を想定し避難訓練を行い、内1回は消防署立会いで行っている。訓練の実施記録を作成し反省点や消防署からの指摘・アドバイス・改善点などを残し迅速な対応が図れるよう努めている。また、近所の方や協力者の緊急連絡網を作成し、誰が見ても胆送か歩行可能かわかるよう居室入り口に目印をつけ、避難時誘導の混乱が避けられるような工夫をしている。災害時の備蓄は3日分は用意しておりリストを作成し定期的にチェックを行っている。	年2回夜間想定を含めた避難訓練を行い、1回は消防署立会いのもと実施している。 訓練後の職員会議で、反省点と次回に向けた課題などを話し合い、訓練記録とともに記録に残している。 緊急連絡網には近隣住民も加わっており、避難訓練にも参加協力を得ている。 災害に備えて飲料水や米、缶詰等3日分をリストを作成して備蓄し、災害時には近隣住民宅の飲料水にもなる井戸が使用可能となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮し、自尊心を傷つけないよう利用者一人ひとりに合わせた言葉かけやケアを行っている。また、利用者に関する記録物などは机の引き出しに保管するなどして情報漏洩に配慮している。	職員は利用者の基本情報から生活歴を把握し、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけを行っている。 排泄時のトイレ誘導の際は、さりげなく声をかけるなど、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活内で会話を多く持ち思いを表出しやすい雰囲気作りに努め、自己決定が困難な場合には助言をしながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活パターン・体調・ペースに合わせてその人らしいその人が望む暮らしに近づけられる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1回/2ヶ月 地域の美容組合の協力のもと施設に訪問してもらい希望の髪型にカットしてもらったり、時にはお化粧品をもらって写真をとったり、外出時にはおしゃれをしたりしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立には利用者の希望を取り入れたり、季節の食材やメニューの工夫をしている。食材の買い物や野菜の皮むき、食器洗いなど出来ることは職員と一緒にしながらその人にあった役割が持てるよう工夫している。	職員が献立を1週間分作成して調理するため、利用者の希望や嗜好を取り入れ季節に合った食材を取り入れた献立となっている。 半年毎に摂取栄養状況を外部の管理栄養士に依頼して確認し、常にバランスのとれた献立になるよう努めている。 誕生会や行事食は利用者の希望する献立にしたり、外食にするなど食事が楽しめるよう工夫している。 職員は利用者の咀嚼能力に応じてトロミをつけたり、刻み食を提供するなど、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。 利用者は職員と一緒に食事の下準備や食器洗い、配膳、下膳、テーブル拭きなど、能力に応じて役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	知り合いの管理栄養士に相談や助言を受けながら高齢者むけの献立を立てており、各利用者の状態にあった食形態の工夫や、トロミ剤の使用などして安全に摂取できるよう配慮している。水分量や食事量の記録をして状態把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯の洗浄の声掛けを行い清潔保持に努めている。会話時などに口臭等さりげなく観察を行い羞恥心に配慮した声掛け・誘導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、各利用者の排泄パターンを把握している。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知し、声かけ誘導してできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。 リハビリパンツやパッドを利用して自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品を取り入れたり水分補給を行っている。便秘勝ちの方には起床後にヨーグルトや牛乳を提供する等して個別に対応している。リハビリ体操やラジオ体操などを取り入れたり、天気によって近所まで散歩に行くなど運動支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	自立の方は毎日入浴できるよう支援している。見守りが必要な方関しても本人の意向を確認し、全介助の方は2回/週の入浴介助を行っている。皮膚の観察はもとより、乾燥防止やリラックス効果のために入浴剤の工夫をしたりしている。	利用者の希望にそって毎日でも入浴ができるよう支援するとともに、全介助の利用者も最低週2回を目指して日時を指定せず、利用者の希望にそって入浴ができるよう支援している。 乾燥肌防止や利用者のリラックス効果のため入浴剤を使用したり、季節に応じて菖蒲湯や柚子湯などを取り入れた支援をしている。 入浴を拒む利用者に対しては、声かけに工夫をして入浴を促すほか、清拭や足浴で対応し、無理強いをしないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングにヒーターつきのテーブルを配置し冬場は足元を暖めながらくつろげるよう配慮している。下肢のむくみがある方には足台を用意し挙上出来る様工夫したり、自立の方はそれぞれの部屋で好きな時間に休息をとっている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の内服薬の文献を保管し全職員が薬効などを理解・把握できるようにしている。毎食時に配薬し必ず3回は確認し安全に服薬できるよう支援している。症状変化時は速やかに看護師に報告すると共に状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の生活歴・趣味などを把握・理解した上で状態や様子を見ながら今までしてきた役割が継続できるよう配慮したり、新たな役割や生きがいを持って、楽しく生活が送れるよう支援している。また、1回/週手作りオヤツの日を設け利用者が楽しみながら作って食べる喜びを感じられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近所まで散歩に行ったり、玄関前で日光浴を行っており、季節感を感じられるよう果物狩りやイベントに参加している。地域のイベントの際は関係者と連絡協議し駐車場の確保など協力を得ている。お盆やお正月には家族へ連絡し外出や外泊への働きかけを行い家族とのつながりを感じられるような支援を行っている。	天気の良い日には、職員と利用者で事業所周辺の散歩や玄関前のベンチで日光浴、希望によりコスモス畑や潮来のあやめ祭り、ぶどう狩り、苺狩りなどを行事に組み込むほか、花火見学や12月にはイルミネーション見学に出かけるなど、夜の外出も実施している。 職員が同行できない場所については、利用者の思いを家族等に伝え、行けるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は家族の同意を得て所持している。それ以外の方は施設が立替をしているが、外出時の買い物などは本人にお金を渡し本人が支払いを行えるよう支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話がかけられるようにしている。個々に来た手紙・荷物などは本人に渡ししており、郵便物を出す場合は職員が代わりに投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節を感じられるようにその時々の花や物を飾ったり、利用者が作ったもの等を飾ることで、明るい雰囲気作りに努めている。トイレ、浴室は清潔保持に努め、手摺の設置や環境整備などで安全面に配慮している。	玄関フロアーには季節の花や5月人形、絵画が飾られ季節感のある家庭的な雰囲気となっている。 居間兼食堂は高い天井の天窓から光を取り入れて明るく、ソファが配置され、隣接して腰かけるのにも良い高さに6畳の和室が続いており、利用者同士が会話を楽しんだり自由に寛げる空間となっている。 各ユニットに車いす対応のトイレがあり、両側に手摺を設置し、廊下にも手摺を取り付けるほか、入浴の際の更衣室にもベンチ式の椅子が配置され、利用者の安全に配慮した造りとなっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い場所にソファを配置したりくつろげるような環境作りを行っている。一人がけのソファを設置するなどして個別対応を行っている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の必要物品の説明時に新たに購入するのではなく、今まで自宅で使っていた馴染みのある生活用品を持ってきてもらうよう働きかけている。洋室・和室などもその人にあった生活スタイルが継続できるよう支援している。	居室にはエアコンやクローゼット、スプリンクラーが設置され、ベッドは今迄利用者の持ち込みとしていたが、介助用ベッドを事業所で用意する場合もある。 管理者は利用者らしい部屋づくりとなるように、防炎のカーテン等を持ち込むように説明し、利用者はカーテンや寝具類、衣装ケース、テレビ、仏壇、家族の写真等を持ち込み、居心地良く暮らせるよう工夫している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー・手摺設置など安全に移動が出来る様配慮している。トイレや浴室はわかりやすく表示し、個々の状態や能力を理解し支援するよう努めている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさくら荘

作成日 平成27年9月14日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	現在は、やむを得ず身体拘束を行う場合書面で同意を取り説明を行っているが、職員全員で拘束排除に積極的に取り組むまでには至っていない。	身体拘束をなくす工夫を職員全員で検討・実施	定期的な研修会や検討会の実施	1年
2		家族アンケート・意見箱の設置はしているが、意見や要望があがってこず運営に反映できていない	利用者・家族の意見や要望が聞けるような工夫を行う。	家族アンケートの実施・アンケート結果を家族に報告。来荘時	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。